

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271201848		
法人名	有限会社 カムアクロス		
事業所名	グループホームしいえす常盤平		
所在地	千葉県松戸市常盤平3-12-3		
自己評価作成日	平成25年12月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	千葉県柏市光ヶ丘団地3-3-404		
訪問調査日	平成25年12月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スタッフ一層、日々専門性の高い学習を重ね実践に反映していることで、安全で安心できる生活を送ることが出来ています。また一人ひとりの出せる力が発揮され、梁のある楽しい生活の場となるよう、利用者の皆様とスタッフが一体となり、作品や特技を披露できるイベントを企画し、発表から展示の喜びから次の意欲へと繋がってくる実感を味わうことが出来る施設です。また食事の提供においても、栄養、盛り付け、視覚の面でも楽しみがある食事づくりに配慮し、支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は市内外に知られた常盤平の桜並木から一本路地を入った閑静な住宅地に立っている。入居している利用者は80歳台から90歳台に達する人が多くなり、一人で行動できる範囲も狭まっているものの、食事やおやつ等、全員で共に過ごす時間を除き、外気浴をする、部屋で寛ぐ、趣味に没頭する等、利用者個々のペースで生活ができるよう支援している。
事業所は馴染みの人や場との関係継続の支援について、家族への面会の働きかけや電話での会話支援を行う一方、桜祭りや盆踊り、バザーなど地域の様々なイベントに出かけている。またカラオケや民話の読み聞かせなどの機会を設け、利用者の馴染みを継続している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【ありのままでもいいんだよ】の理念を共有し、今までと変わらない生活に近づけるよう、職員一同実践・支援しています。	利用者は80歳台から90歳台に達する人が多くなり、一人で行動できる範囲も狭まっているものの、食事やおやつ等、全員で共に過ごす時間を除き、型にはめずに、利用者のペースで生活ができるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事予定を組み、家族・隣人・住民参加の声掛け電話連絡等を行っている。町内の理容室を利用したり、地域スーパーを利用しながら、地域の参加をしています。	盆踊りや桜祭りなど地域の行事に参加し、事業所の行事には近隣の住人を誘っている。また、買物や散歩の途上で合う地域の人達とは声を掛け合い交流を深めている。近隣住人からは災害時の避難協力の申し出もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市の相談員、地域包括センターのご協力、ご指導を受けつつ、またご家族の協力を得ながら、地域に溶け込めるよう、努力をしております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期開催を行い、実践状況の報告やその時のテーマに沿って問題を提起し、評価を行いながらサービスを行っています。	地域包括支援C、介護相談員、民生委員、家族等の参加を得て2ヶ月毎に開催している。近況報告とともに、その都度のテーマについて参加者から出される意見は詳細に記録され、それらをサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護給付課、地域包括センターとの連絡を取り、利用者の生活がよりよい となるようにご指導を頂けるよう、協力関係を築いています。	地域包括支援Cと定期的に意見交換を行い運営に活かし、介護給付課とは提出物の件等で随時連絡を取り指導を得、介護相談員は利用者全員の声を聞き、事業所にアドバイスしてくれる等、市との協力関係は定着している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	【ありのままでもいいんだよ】の理念の下、原則としては玄関ドアにチャイムを取り付けている。また、危険の予測がある場合、可能な限り付き添い、見守ることを職員全員に周知し、実践に取り組んでいます。	毎週開催する研修会で禁止の対象となる行為を事例に基づき繰り返し周知している。また庭での外気浴の奨励や、利用者に見合った外出支援で不安を和らげ、利用者が理由もなく外へ出る動機抑制に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員の定期研修、また外部で受けた研修の発言の場を設け、虐待に関していかなる場合も見逃すことのないよう、全職員が意識を実践するよう、取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修において専門職の講義を受けたり、管理者として権利擁護に関する研修を受け、学んだことを活用できるように施設内研修を行い、全職員に周知する機会を作っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時のケアプラン作成において、入居者様・ご家族に解りやすい説明を行い、不安、疑問がないか確認し、理解、納得を得たうえで契約をして頂くよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族には、常にコミュニケーションをとりやすい環境を作っている。ご意見、ご要望があればいつでもお受けできるよう、面会記録書を設け、自由に申し出られるようにしている。また話しやすい環境を作るようにしています。	家族からは、運営推進会議の際に意見をきく他、面会時にも感じたことを記録して貰ったり、面接で話し易い雰囲気づくりに配慮しながら率直な意見を聞くなどして、カンファレンスでこれらを掘り下げ支援に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務を実践していく中で疑問や改善案があるときには、朝礼、申し送りノートによる、その都度検討・処理し、反映できるようにしている。	毎週水曜日の定例研修会は、職員が自由に発言できる場でもあり、利用者個々の支援については、この場の職員の意見を基に方針を決めている。また、朝礼や申し送りノート等の意見や提案も運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	内部、外部研修を受ける機会を持ち、各自が向上し、内部評価にも反映させ、やりがいのある働きやすい環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、社内研修、外部研修と社内研修、外部研修と各人に合った研修を提案し、実務書及び経験者が講師となって内部指導をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は系列の施設との勉強会、研修を通して交流を深め、お互いの良い活動をサービスに反映できるよう取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設生活が始まってから不安な様子や困っている様子がないか、些細な表情からも汲み取る声掛け、傾聴の関わりを取りながら安心して生活を楽しんでいただけるよう、各職員の経験を生かし、支援、関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の面会時には、本人の生活状況や身体状況を報告し、安心して頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス提供とともに、施設での暮らしによる環境の変化も合わせ、内容を変更し、他のサービス利用にも対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のADLに合わせ、できることを一緒に行い、またできる力が発揮できるように見守り支援するなどの努力を行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族から今までの生活状況や習慣を聞き取り、相談をしながらご本人を支えています。またイベント等を企画しお誘いし、ともに参加できる支援をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は楽しみにされています。遠方のご家族や体調が悪くて来られないご家族には、電話やお手紙に写真を添えるなど、近況をお伝える支援をしています。	家族への面会の働きかけや電話での会話支援を行う一方、桜祭りや盆踊り、バザーなど地域の様々なイベントに出かけている。またカラオケや民話の読み聞かせなどの機会を設け、利用者の馴染みを継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士楽しく過ごせるよう、利用者一人一人を把握し、コミュニケーションがスムーズにとれるように職員がつなぎ役として話題を提供し支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、相談や支援をしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴、職歴を顧みて、その人らしい生活のあり方の検討を行い、話題の提供、共感できる会話や傾聴の機会を設けています。	日々の関わりの中で、利用者は過去を顧み生き生きと語ってくれる。それらから個々の希望や意向の把握に務めている。発語が困難な利用者には、声をかけ傾聴し、些細な表情やしぐさをも見逃さないように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	行為や行動が、その人にとっての景観のどこから来たものかを考慮し、ケアに活かしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の挨拶の声掛けにより、その人の心身の状態を把握して、一日が快適に過ごせる支援ができるよう、努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族との話し合いの中から、現状と以前の生活とのつながりを知りえなかった新たな事実が判明することもあり、介護に役立っています。	家族を通じて知り得た事実等は計画に反映すると共に毎月モニタリングをし、必要な場合はすぐに計画を見直し、利用者の現状に合わせたベストの生活支援に務めている。また家族には生活状況等を報告している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスを行いケアの共有を図り、実践しながら記録し、ケアの見直しを行い、計画に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活リハビリについては、主治医と相談して事故のないよう最善を尽くしています。またご本人に家族の希望により、外部のマッサージの利用など、社会資源も活用し、支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	春には、施設前の桜並木で桜祭りに参加、また近隣の公園等で散歩を楽しんだりしています。夏には近くの公園での盆踊りに参加し、楽しまれています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診を受け、状況によってはご家族に連絡、報告を行っている。緊急時には停会する総合病院に搬送できるシステムがございます。	利用者は月2回かかりつけ医の往診を受け、また歯科も同様月2回口腔ケアを中心に往診を受け、治療と併せ義歯も作ってもらっている。緊急時には提携する総合病院に24時間いつでも搬送できるシステムがある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	担当看護師さんに心身の状況の変化を報告し、主治医との連携に配慮しています。内容は往診記録に残しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には定期的に面会し、状態の把握に努め、隊員がまじかであるかどうか、リハビリの状況等の情報を得て、退院に備えて病院の主治医との関係を持っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ケアマネジャーを中心に日頃から病状の把握に努め、家族に連絡の上、その意向を把握して主治医による診療を受けながら、指示・指導を受け、支援を行っています。	終末期に向けて家族と主治医・担当者間で相談し、入院させるか否か合意の上で看取りをする。担当者会議を何回もし、主治医の指示指導を受け、痛みが少ないように音楽をかけ、終わった頃に声かけをする等、淋しい思いをさせない支援に務めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に備え、初期対応の徹底と、必要に応じた主治医との連携を取りながら支援を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時を予測し訓練を行っています。また研修等で実践力を身に付けています。また緊急連絡網等は徹底し、また近隣にもお願いをし、協力の体制を得ている。	今回は夜間の火事を想定し、夜勤を行う者一人ひとりに初期消火から避難まで、消防が到着する3～5分間慌てて逃げず安全な場所に一時退避の訓練を行い、その際消防の指導による抜き打ち想定質問を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症への理解、ケアの在り方についての研修を重ね、一人ひとりの人格を尊重し、丁寧なかかわりを心がける支援をしています。	実践の中での教育を重視し、日々の介護と結びつけながら尊厳を守るための研修を行っている。特に言葉かけについて、誇りやプライバシーを損ねないように毎日職員同士で注意し合い、丁寧さを心掛けた支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	丁寧な声掛けをすることなど、ご本人の思いや希望を聞き出し、時間をかけてその思いが実現できるよう、援助しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の心身の状況を観察・把握したうえで、散歩や体操、入浴を実施しています。ここに合わせ、レクを行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時じや、着替えの時の選択の手伝いを行いながら、季節の変化を感じていただいています。 訪問理容室を利用し、ご本人の希望される髪型に仕上げ、満足できる支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しめるように、料理の盛り付けなどの工夫をしています。昔懐かしい料理の提供をし、喜ばれています。体調により配膳や片づけを職員と行っています。	具沢山の「すいとん」など昔懐かしい料理を提供したり、赤飯、チラシ寿司、手作りケーキなどを作り非常に喜ばれている。食事の準備や片付けは、利用者と職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の体調、口腔状態に合わせた食事形態の提供、水分確保は困難な利用者様には好きな味の飲み物などを提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔状態に応じ、毎食後、本人ができない部分の介助を行いながら、口腔内の清潔を保持しております。月2回の歯科医師の往診時に相談しながら、清潔保持の支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを職員同士が把握・共有しながらトイレ誘導または声掛けを行い、失敗を減らし、快適に過ごせるよう支援を行っています。	利用者一人ひとりについて、パターンを把握し申し送り定時の声かけ・トイレ誘導を行い失敗を減らし、排泄の自立に向けた支援を行っている。夜なども定期的に声かけを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬ばかりに頼らず、食物の工夫や水分摂取量等に配慮し、軽い運動への働きかけなどを支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の体調や希望を考慮し、個々に合った支援をしています。体調によっては清拭や足浴を行い、支援をしています。	利用者個々の体調や希望を考慮し、本人の意向に沿う入浴を心掛けている。体調によっては、足浴やシャワーで首だけ温める事もある。入浴を楽しんでもらうため個々の希望に沿って体を洗う等の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や状況に合わせ、日中は昼寝、また天気の良い日は日光浴等を支援し、夜間は安心して眠れるよう、一人一人の見守りを支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の服薬の理解をし、支援していません。 服薬は間違えのないよう、一人ひとり対面し、日付、名前を復唱し、確認しながら実施しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	配膳、下着・洗濯ものたたみなど、興味がある手伝いをご自身で選んでいただき、日課として生活のリズムになっています。また趣味に集中して過ごされたり、庭の花木の手入れを仕事として、張りのある生活を楽しんでおられます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣が商店なので、散歩しながらスタッフの付き添いで買い物に出かけたり、面会されたご家族も外食を心がけてくださっております。	家族と一緒に買い物に出かけたり、近くの公園へ散歩に出かけたりする。歩行困難な場合には車椅子利用で戸外に出る事もある。毎日1時間位外気浴を行い、各自椅子を持ちあいコミュニケーションの場にもなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	身体状況によって外出を控えなければならないときは、希望を受け、内容を考慮し対応、支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の希望により、関心のある方と連絡を取る支援をしています。また電話や手紙等でご本人に代わって、近況をお知らせするなどしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間において、利用者に危険がないよう配慮した生活や季節が感じられる空間の提供を支援しております。	殆どの利用者は、何時も各階のホールに居る事が多い。2階のホールでは、オルガンの弾ける利用者が居て、1階の利用者が出かけて行き、歌謡ショーをしたりして思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の状況に配慮し、好きな作業や趣味を楽しんだり、ご自分の居室で過ごされたり、自由な時間を支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の希望により、使い慣れたものを活用し、居心地良く暮らせるよう、支援しています。	家族と相談し、使い慣れたものを徐々に増やして行き居心地良く過ごせるよう、支援している。さりげない衣服の整理等の支援で気持ちよく暮らしている雰囲気である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人できることを観察し、安全な環境を提供しながら自立した生活が送れるよう、支援しています。		